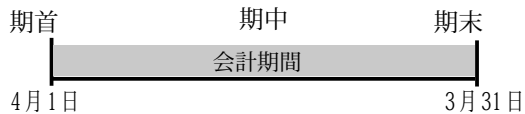


### 3 会計期間

企業は財務諸表を作成し、利害関係者へ報告していきますが、それは人為的に継続している経済活動を一定期間に区切って行なわれます。この一定期間を**会計期間**といいます。通常は1年で任意に期間を定めることができますが、1月1日から12月31日、または4月1日から翌年の3月31日というケースが多いです。会計期間の最初は**期首**（きしゅ）、会計期間内は**期中**（きちゅう）、最後は**期末**（きまつ）または**決算日**と言います。



### 4 取引

私達が一般的に使う「取引」と会計の「取引」は異なります。

会計上の取引は、資産、負債、資本の増減に影響を及ぼすものを言います。

例えば、一般的に取引である得意先との商品の売買契約においては、契約をしただけでは商品を売上げたわけではないので会計上の取引にはなりません。

一方、会社の倉庫が火災で商品が滅失した場合は、資産の減少になることから簿記上の取引になるのです。

#### 確認問題

会計上の取引に該当する事項として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選んでください。

- a. 得意先から商品 400,000 円の注文を受けました。
- b. 備品 60,000 円を代金翌月払いで購入しました。
- c. 家賃月額 80,000 円で店舗を借りる契約を結びました。
- d. 火災によって倉庫が 200,000 円の損害を受けました。

#### 【解答群】

ア. aとb イ. aとc ウ. bとc エ. bとd オ. cとd

(中小企業診断士試験 改題)

#### 問題 000 の解答と解説

会計上の「取引」に関する考え方は、資産、負債、資本の増減に影響を及ぼしたり、費用、収益が発生したり場合です。これは、aのように注文を受けたり、cの契約しただけでは取引にはならないことを意味します。したがって正解はエです。